

六甲カトリック教会 教会報

2024

5

No. 629



福音的配慮のある教会へ

主任司祭 英 隆一朗, s. j.

毎月第1日曜日10時のミサは手話付きミサを行っています。この教会には、3名の聴覚障がい者、1名の視覚障がい者がいて、さらに手話通訳に熟達している信徒がいます。私も少しだけ手話ができますので、手話付きミサを定期的に行うようになりました。他教会の聴覚障がい者の方も参加され、ミサ後には簡単な交流会をしています。

障がい者に関する新しい法律をご存じでしょうか。「障害者差別解消法」が2016年から施行されました。お店・交通機関・行政機関など、障がい者であるという理由でその利用を拒否することは、不当な差別的取扱いとして禁止です。障がい者の利用を拒むことは、法律違反となりました。障がい者から施設の利用申し出があった場合、合理的配慮を提供する必要があります。つまり、障がい者が利用できる適切な方法を考えて、実施することが求められています。合理的配慮は民間の施設にとって努力義務でしたが、この4月から法律が改正され、この合理的配慮がすべての事業者に課せられた義務となりました。もちろん教会も含まれます。もし障がい者が教会内の集まりに参加したいという要望があった場合、不当な差別的取扱い（例えば、前例がないとか、特別扱いできないとか、もし何かあったらと言って、拒否すること）はできないですし、何とかその人が参加できるように最大限の合理的配慮を提供する義務が課せられました。合理的配慮のために、障がい者との建設的対話が推奨されています。

この教会の中では、身体障がい者だけでなく、さまざまな精神障がい者の方もおられます。また、高齢化によって体と心が弱くなっている方も多くおられます。そのような方々が教会に来られ、神とつながり、人とつながって生きる教会生活のため、合理的配慮をさらに進めていく必要性を感じています。イエスさまが病人や障がい者に対して、いやしの業を行われました。そのようなイエスの態度にこそ、合理的配慮というよりも、福音的配慮の模範があります。イエスの福音的配慮を進め、ともに歩むシノドス的な教会になっていきたいです。



最近の合理的配慮の例を取り上げるならば、説教がよく聞こえるように、説教台のマイクを取り替えました。前よりは説教が聞きやすくなったでしょう。また、主日10時ミサの説教は録画して、六甲教会の公式ホームページにアップしてありますので、後から何回でも視聴することができます。

なお、お花係は高齢化のためにいったん解散しました。今は業者に直接納入してもらっています。今までお花の世話をしてくださった方々に心から感謝します。最近、いろいろな面で高齢化による人手不足が露呈してきました。掃除をする人だけでなく、事務や会計担当者も不足しています。このような弱さの中であって、建設的対話をしながら、福音的配慮を求めていきたいです。

増井 啓 神父様 叙階 25 周年（銀祝）おめでとうございます !!

増井 啓 神父様はこのほど叙階 25 周年（銀祝）を迎えられ、3 月 27 日（水）に大阪玉造教会のミサの中で祝福を受けられました。ここでは、叙階にいたるまでの貴重な経緯を教えてくださいました。



司祭叙階は 1999 年 9 月 12 日。山口教会でした。焼失後の山口教会の献堂直後で、山口県下関市細江教会出身でしたので、そこで行うことになりました。司式司教が実は二人いて、一人は当時の広島教区長ヨセフ三末篤實司教様と、もう一人は当時の大阪大司教の池長 潤大司教様でした。池長大司教様はイエズス会だったためか（今ははっきりと覚えていませんが）共同司式の形で参加されました。司祭は 60 人くらい集まり、信徒への御聖体が足りなくなるほどでした。

司祭職への召命を考えたのは、大学四年生のころでした。当時同志社大学の法学部に在籍し、就職活動も控えていた時期でした。京都教区の高野教会に所属し、日曜学校のリーダーと一緒にレジオ・マリエという信心会に入っていました、ごく普通の信仰生活を送っていました。



玉造教会で紹介された際に、現在学校で教鞭をとっている一方、「学校では殆ど受洗者がいないが、将来に向けて種を蒔いているので、皆さんのお祈りをお願い致します」とお話ししました。

ところが、卒業と就職活動の大事な時期にも関わらず、友人との関係や、自分と神との関係などを見直すような様々な出来事に遭遇して、聖書と祈りの中で、神様のお恵みに深く触れる機会が出来て、これまで経験したことのない深い喜びと感謝の内に、神様の福音を宣べ伝えたいと思うようになりました。それはこれまでの生活を変えるような回心だったと思います。最初は、当時の高野教会の主任司祭であった丸山吉高神父（当時癌で闘病中）に相談し、神父がフランシスコ会第三会員であって、私もアシジのフランシスコの生活に魅力を感じていたこともあって、フランシスコ会に入りたいと希望を述べました。ところが、丸山神父は、まず両親に話してからにしろと言われたので、素直に従って、実家に戻って母親に相談しました（実はその年に父は癌で他界したばかりでしたので、私のいきなりの相談内容に気が動転したと思います）。母親は、所属教会で長らく司牧されてきたイエズス会のリントホルスト神父に電話で相談し、リントホルスト神父から「それ（私がイエズス会に入会すると勘違いして）は良い決断です」と言われたそうで、それから、私は親の公認でイエズス会の志願者の集いに参加したり、長束の修練院に体験入院したりして、自分の召命について具体的に考え始めました。こういう状態でしたので、幸か不幸か大学の大切な教科の単位を落としてしまい、留年になって、決まりかけていた就職先もだめになってしまいました（その会社はバブル期後に倒産することになるのですが）。イエズス会については、地元の教会でずっとお世話になっていたにも関わらず、「学者神父」「金持ち修道会」といった偏見があって、当初はなじみませんでした。召し出しの集いで出会う司祭や修道者と接すると、不思議と話しがはずみ、また、イグナチオの生涯を知ることになって、自分の回心と似ているかもと思い、次第にイエズス会における修道生活に魅かれていきました。こうして、一年の留年と召命を考える期間を経て、広島市安芸長束にあったイエズス会修練院に入ったのは、ちょうど昭和天皇が崩御されて元号が変わったばかりの 1989 年の 4 月のことでした。それから二年間の修練期を経て、哲学を三年間、中間期（栄光学園勤務）を二年間した後で神学の勉強に進み、神学生の四年時に叙階の恵みに与りました。

ペトロ 増井 啓

《 中高生会 春キャンプ～津和野巡礼の旅～ 》



津和野教会の前で
記念撮影

中高生会では、2024年3月30日(土)～4月1日(月)まで、8名の中高生と2名のヘルパー、渡辺神父様の合計11名で、津和野へ春キャンプへ行きました。「キャンプ」という名前ではありますが、テントを張ってサバイバルな体験をするのではなく、「巡礼の旅」を行いました。

宿泊場所は、津和野カトリック教会です。聖土曜日の復活徹夜祭のミサと、復活祭のミサにも参加させていただきました。参加されていた信徒の方は20名程度でしたが、方型で畳敷きの古き良き聖堂で、熱心に祈っておられる津和野教会の方々とともにミサに与れたことは、旅の大きな実りの一つでした。主任司祭の山根敏身神父様には、復活徹夜祭のお説教で、「今日は六甲カトリック教会の中高生のみなさんが来てくれました」という言葉に始まり、津和野出身の森鷗外



十字架の道行(津和野教会)

とキリスト教の関係について、神父様の深い洞察を交えて教えていただいたり、宿泊している間、様々に助けていただいたりと、大変お世話になりました。

春キャンプのプログラムについても紹介します。キリシタン殉教の地である津和野に来たので、1日目にはまずは歴史の学習をしました。キリスト教伝来～キリスト教の禁止令が出て、250年もの間潜伏キリシタンが教えを受け継いでいたこと。大浦天主堂に、潜伏キリシタンが現れて信仰を表したこと。明治になってもキリスト教の禁止は続き、“浦上四番崩れ”★¹によって津和野まで浦上の信者たちが送られた経緯。津和野における、身体的迫害、心理的迫害の数々、そして迫害によって殉教した人々のエピソード。それらの知識を持った上で、2日目、乙女峠を訪ねました。三尺牢とそこに現れたマリア様のご像や、氷の張った池(復元されたもの)を見ながら、安太郎や裕次郎、モリちゃんのこと★²を思い返し、祈りました。また、津和野教会に帰ってからは、殉教者とイエス様の受難を重ねながら味わう「十字架の道行き」を行いました。2日目の最後には、それぞれにとって「信仰とは何か」を考え、分かち合いました。また、考えたことを色紙に書き、今回の学びのまとめとしました。

2日目、3日目には、津和野の観光もしました。津和野城址へ観光リフトで上ったり、森鷗外旧居を訪ねたりしました。何より、山陰の小京都と呼ばれる風情あふれる街の中を仲間とともに歩きながら、鯉に餌をやったり、津和野名物の甘味「源氏巻」を買ったり、ソフトクリームを食べたりと、楽しい観光の時間を持てたことも、旅の実りの一つでした。

津和野からの帰り道、参加した中高生が「来年、津和野に来たらさあ・・・」と語り合っていたことが、心に残りました。また来たくなるような旅ができたことは、中高生にとって心に残る機会になったと思います。このような機会をいただけたこと、心より神様に感謝したいと思います。

中高生会ヘルパー 三澤 尚久

★1 江戸時代中期から4度にわたって発生したキリシタン弾圧事件(浦上崩れ)の4度目の摘発事件。

★2 安太郎や裕次郎、モリちゃんのこと:津和野で殉教した浦上村の若い信徒たちの名前。

カトリック教会は、毎月、「教皇の祈りの意向」を示し、教会全体が日々の祈りの中で、その意向に基づいて祈るように招いています。5月の祈りの意向は、「修道士・修道女と神学生の養成」です。次のように祈りましょう。

「修道士・修道女と神学生がそれぞれの召命の道を歩む中で、人間性、司牧性、霊性、共同体性についての養成を受けて成長し、信頼される福音の証人へと導かれますように。」

写真でみる 2024 聖週間と復活の主日

お子様の写真は教会学校の保護者の皆様の同意を得て掲載しています。

受難の主日 (3月24日)



雨模様の24日、枝の祝別はイグナチオホールで行われ、「枝の行列」へ。聖書に出てくる「枝」=「ナツメヤシ」は日本ではシュロと誤訳されていますが、日本に生息しないため「ソテツ」で代用されています。

主の晩餐のタベのミサ (聖木曜日) (3月28日)



聖木曜日にはミサ中に洗足式が行われ、大人4人、こども4人が与りました。ヨハネによる福音書(13;1-17)では、過越際の前の夕食の席でイエスが弟子たちの足を洗うことで彼らに見本を示されたとあります。

主の受難の祭儀 (聖金曜日) (3月29日)



十字架顕示。祭儀の中では、司祭・朗読者・会衆によって主イエスの受難の朗読が行われました。

復活の聖なる徹夜祭 (3月30日)



復活徹夜祭での光の行列のはじまり。祝福された復活ろうそくから、信徒のろうそくに火が次々と灯されて、沈黙のうちに聖堂へ。この日、ひと足さきに洗礼に与った大矢さん。その受洗の言葉を次の頁に掲載しました。

復活の主日 (3月31日)

3月31日ご復活の主日には10名が洗礼に与りました。

写真右:前列が新受洗者、後列は代父母のみなさん。中央は英神父と、右に増井神父。



この日のために用意されたEaster eggは350個。前日に教会学校のリーダー達とザビエルハウスのシスターオが卵をゆで、シールを貼ったり絵を描いたりして準備してくれました。そして子ども達が配りました。



† 受洗のことば

私は妻と成人した2人の娘の4人家族で、私以外はプロテスタントの洗礼を受けています。私がキリスト教を知るきっかけになったのは、子供がミカエル幼稚園だった事で、そこで沢山のクリスチャンの仲間が与えられ、本当に楽しい時を過ごさせて頂きました。神に感謝！また、宣教師の教え導きで夫婦の学びを体験させて頂き夫婦の関係が大変良くなりました。それは、まず「ファイアー・ストーム」という映画を見て（離婚の危機に陥った夫婦が、夫の父親の勧めで、聖書のみ言葉による40日間結婚生活回復プログラムを通し、離婚を回避するという内容）、映画に使われている「ファイアー・ストーム 決断する愛」という本の内容を実践し、最後にお互いに誓約書を交わし子供も加えてもう一度結婚式をしようと言うものです。大変有意義な時間を過ごさせて頂き、本当に神に感謝です。このような神様の恵を通して洗礼を受けようと思いました。

私は六甲カトリックの静かなミサと祈りが私には合っていると思い、また、英神父のお導きもあり、カトリックで洗礼を受けました。信仰の先輩方を見習って、クリスチャン生活を楽しんで行きたいと思います。よろしくお願い致します。 シャローム！

ルカ 大矢 安孝

【5月の社会活動部の予定】

5月1日(水) 10時 手芸の集い 第1、第2会議室

5月11日(土) 10時半 炊き出し 小野浜グラウンド(中央区小野浜町3)

5月24日(金) 9時半 ともしび会 教会台所(児童養護施設のこどもたちへのケーキ作り)

《 生と死を考える会 》 (4月21日の月例会)



花ぐもりというより黄砂の影響か、どんよりとした日曜日の午後。シスター高木(写真)の講演を聴きました。テーマは「死は人生の一部である」。人間は生まれ落ちた瞬間からすでに「死」を背負って生きている。と自覚せよという意味で「メメント・モリ」(死を常に思え)を意識しなさいというお話。「メメント・モリ」とはラテン語で、直訳すれば「メメント」は「思え」、モリは「死」です。このことばはヨーロッパでは一つの死生観哲学として広く知られています。人はいずれ死ぬけれども、それは新しい世界への門出でもある。信仰心すなわち謙虚な心が「死」を克服する。と、さまざまな実例を挙げてお話されました。そして「赦すこと」の大切さを説かれ、赦すことは出来ないと感じが高ぶっても、最終的には神様の力を借りて赦すのだと諭されました。人生の最後にあたって「良かった」と思えるような、また「神様が喜んで下さるような生涯」を送ることができれば幸せであると。そしてマーガレット・F・パワーズの詩「あしあと」を紹介され、神様は「いつもあなたとともにいる」ことを強調されました。(広報部 詫 洋一)

《 コーラス部懇親会 》

コーラス部の懇親会が4月20日(土)に開かれました。イグナチオホールに11時に集合、会計報告や連絡網の確認などがあり、出席者にアンケートを実施して即発表。歌いたい曲や施設訪問の要望やらのご意見を聞き、今後の活動の方向を探りました。渡辺神父さまのお祈りのあと、お寿司やお菓子をつまみながら自己紹介。人数が多いのでお顔とお名前をあらためて確認しました。そのあと蛭田 武(三日月会会長)さん指導の愛唱歌手話ソング「みかんの花咲く丘」。蛭田さんは「手話は脳トレになる」としきりにお薦めでした。



社会活動部からのお願い：炊出し「カー・ボランティア」募集！

社会活動部では、年10回(8月・11月を除く)毎月第2土曜日に小野浜グラウンド(神戸市中央区小野浜町)で炊出しを行い、経済的・環境的な事情により食事をするのが困難な人々に対して、毎回100名位の方々に無償で食事を提供しています。震災後29年間続いたこの活動を続けていくために、**カーボランティア**を募集しています。年に数回でもOKですので、スタッフ2~3名を乗せて小野浜グラウンドまで送迎をして頂けませんか・・・？

3~4人位の方に、カーボランティアとしてご登録して頂けましたら、年に数回ご協力いただくことで、炊出しを続けていくことができます。この活動が途絶えないように、もう一度支えて下さい。内容は次の通りです。

ご協力よろしくお祈いします。

- ・カーボランティアの方は、朝10時頃六甲教会にお越し下さい。そこでスタッフ2,3名を乗せて出発し、小野浜グラウンドまでお送り下さい。
- ・スタッフの帰りは、調理・配食・後片付けを終える13時30分頃になります。そのころにまた迎えにきていただき、六甲教会まで乗せて帰ってください。

ミサの音楽の話 その2

今回はなぜミサ曲 A, B, C が使われるようになったかのお話です。

現存する最初のミサ曲は 10 世紀ごろに作曲された単旋律のグレゴリオ聖歌です。その後 14 世紀以降どんどん声部も増えて複雑なものになっていき、会衆は歌えなくなってしまっていました。その後の時代には、オーケストラ曲なども作られました。コンサートの音楽になっていったため、会衆が能動的に参加できなくなりました。20 世紀初頭にグレゴリオ聖歌の復興運動が行われました。ところが、日本人にはラテン語は難しく、日本語はグレゴリオ聖歌となじまず、会衆で歌うことはとても難しいままでした。

第 2 ヴァチカン公会議（1962-1965）で、会衆が自ら歌うことを勧められ、自国語でミサが行われるようになりました。

日本語のミサ曲として最も古いものはイタリア人宣教師のチマッティ神父によって 1941 年に作曲されたものです。公会議以前に世界の刷新運動を受けてすでに作られていました。そして、公会議と同じ時期（1963 年）に「やまとのささげうた」が高田三郎によって作曲されました。これは 1966 年に発刊された「カトリック聖歌集」に収められています。1968 年から編纂を始められた「典礼聖歌」は 1980 年に合本が発刊されるにいたりました。この中には 8 組のミサ曲が収められています。そして、ミサ曲 1（高田三郎作曲）には歌ミサ部分も合わせて作曲されており、最もよく歌われました。

教皇庁典礼秘跡省から認証されたことにより 2022 年 11 月 27 日より新しいミサの式文が使用されることになりました。それに従い、ミサ曲の言葉も変化したのでミサ曲 A, B, C が新たに作曲されたわけです。私たちもこの 1 年はまず、ミサ曲 A から歌いはじめました。B, C と少しずつ慣れて行くことができればと思っています。ミサ曲 1～7 も歌うことは認められていますので、また折を見て忘れないように歌いたいと思います。

オルガン奉仕者 三浦優子

2024 年度各種入門講座 ほか

●信仰生活を楽しむ

第 1 日曜日 11:15～

対象：受洗後数年以内の方

担当者：シスター窪

●キリスト教入門講座

第 2・4 日曜日 11:15～

対象：入門志願者のみ（紹介者同席可）

担当者：増井神父

●聖書を味わう会

毎週火曜日 10:00～

対象：どなたでも 担当者：渡辺神父

●福音のよろこびを生きる

第 1・3 水曜日 10:30～

対象：どなたでも 担当者：こいずみゆり

●兄弟の皆さん

第 4 水曜日 10:30～

対象：どなたでも 担当者：岡村祥子

●カトリック入門講座

毎週木曜日 10:30～/毎週金曜日 19:00～

対象：未信者 担当者：英神父

●聖書による信仰入門

第 1・3 木曜日 19:00～

対象：どなたでも 担当者：吉村信夫

●カトリック教会のカテキズム

第 3 金曜日 19:00～

対象：信徒 担当者：岡村祥子

●ぶどうの会（信仰の学び）

第 2 土曜日 14:30～

対象：信徒（30・40代） 担当者：英神父

●霊性研修会

第 4 土曜日 10:00～

対象：信徒 担当者：英神父

●20・30代のキリスト教講座

第 1・3 土曜日 16:30～

対象：どなたでも 担当者：渡辺神父

【2024年5月行事予定表】

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
					聖フィリポ 聖ヤコブ使徒 初金曜日ミサ 7:00 10:00 ◎灘西・中央	教会学校休み
5	6	7	8	9	10	11
復活節第6主日 世界広報の日 手話付きミサ 10:00	教会事務休み				◎東灘北1	社会活動部 炊き出し
12	13	14	15	16	17	18
主の昇天 小教区評議会 11:30	教会事務休み	聖マチア 使徒	三日月会 総会 10:00		◎東灘北2・芦屋	
19	20	21	22	23	24	25
聖霊降臨の主日	教会事務休み				◎定期清掃	巡礼(細川ガラシャ の足跡を訪ねて)
26	27	28	29	30	31	
三位一体の主日	教会事務休み				聖母の訪問ミサ 7:00 10:30 ロザリオの祈り 10:00 ミニコンサート 10:30 ミサ後 ◎東灘南	

◎は掃除当番地区（午前7時時点で気象警報が発表された場合は中止します。）

【編集後記】

◇広報部には、教会報編集部以外にも SNS チーム、掲示板係があります。SNS チームはミサ等の録画・編集・配信を行い、教会ホームページの更新も行っています。さらに教会内のインターネット環境の向上を施設管理部と共同で進めつつあります。また、教会北側の掲示板内容が新しくなりました。これらの活動に興味のある方、ご意見・ご提案のある方はぜひ、広報部までご連絡下さい。（大上）

<p>・次回6月号の発行は6月1日(土)です。 原稿は毎月15日ごろまでに、教会受付へ直接ご持参いただくか、FAX、メールでお願い致します。(renraku@rokko-catholic.jp) 皆さまからのご寄稿をお待ちしています。 <u>教会SNSチームは、フェイスブック、インスタグラム、X(旧ツイッター)、YouTubeチャンネルで配信しています。「六甲カトリック教会」で検索してみてください。</u></p>	<p style="text-align: center;">六甲カトリック教会 〒657-0061 神戸市灘区赤松町3-1-21 電話 078-851-2846 FAX 078-851-9023 http://www.rokko-catholic.jp 発行責任者 英 隆一朗 編集 広報部</p>
---	--